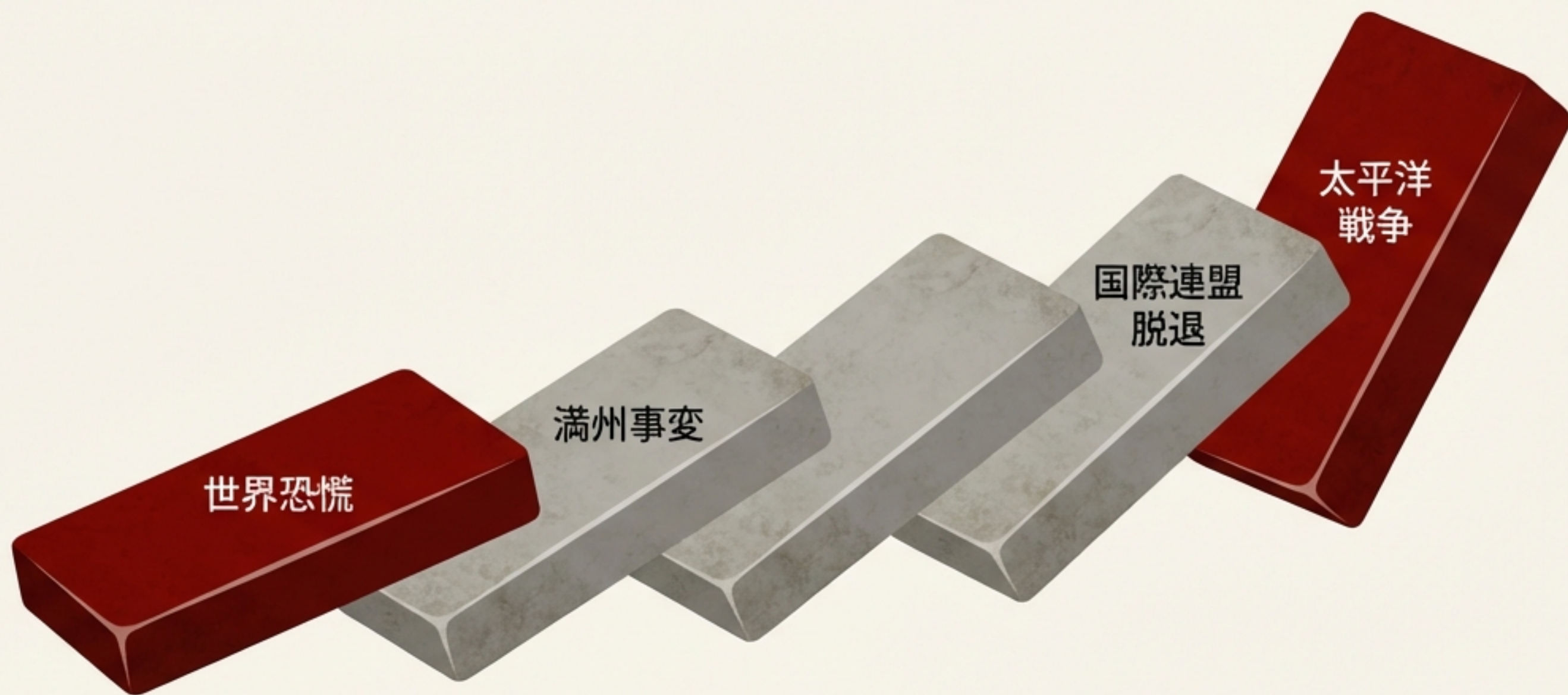


歴史はつながっている：昭和前期、戦争への道

なぜ日本は戦争へと突き進んだのか？ドミノ倒しの物語



最初のドミノが倒れる前

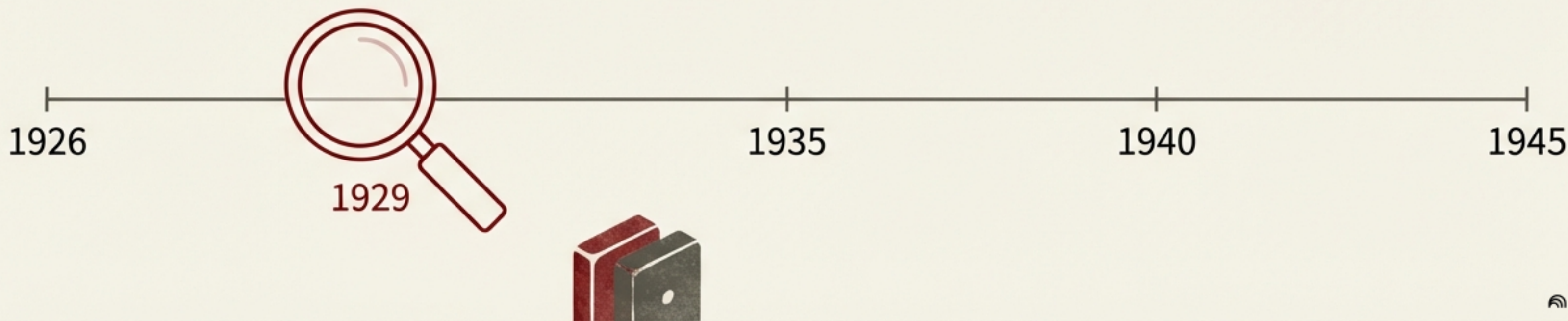
昭和時代が始まった頃、日本は**社会不安**と**不況**の影に覆われていた。

平和な日常の裏で、国を揺るがす大きな変化が近づいていた。

このプレゼンテーションでは、一つの出来事が次の出来事を引き起こす「**ドミノ倒し**」のように、日本が**戦争**へと向かっていった道のりを解き明かす。

なぜ、**軍**が力を持ち、**戦争**は避けられなかったのか？

すべての始まりは、世界を襲った**経済危機**だった。



ドミノ①：世界恐慌が日本を襲う

1929年、アメリカで始まった世界恐慌の波は、またたく間に日本に到達した。日本の経済も深刻な不景気（昭和恐慌）に陥り、特に農村では不作も重なって、生活できない人々が急増した。この苦しみは、やがて政府や政治家への大きな不満へと変わっていく。



世界恐慌
(1929)



深刻な不景気
(昭和恐慌)



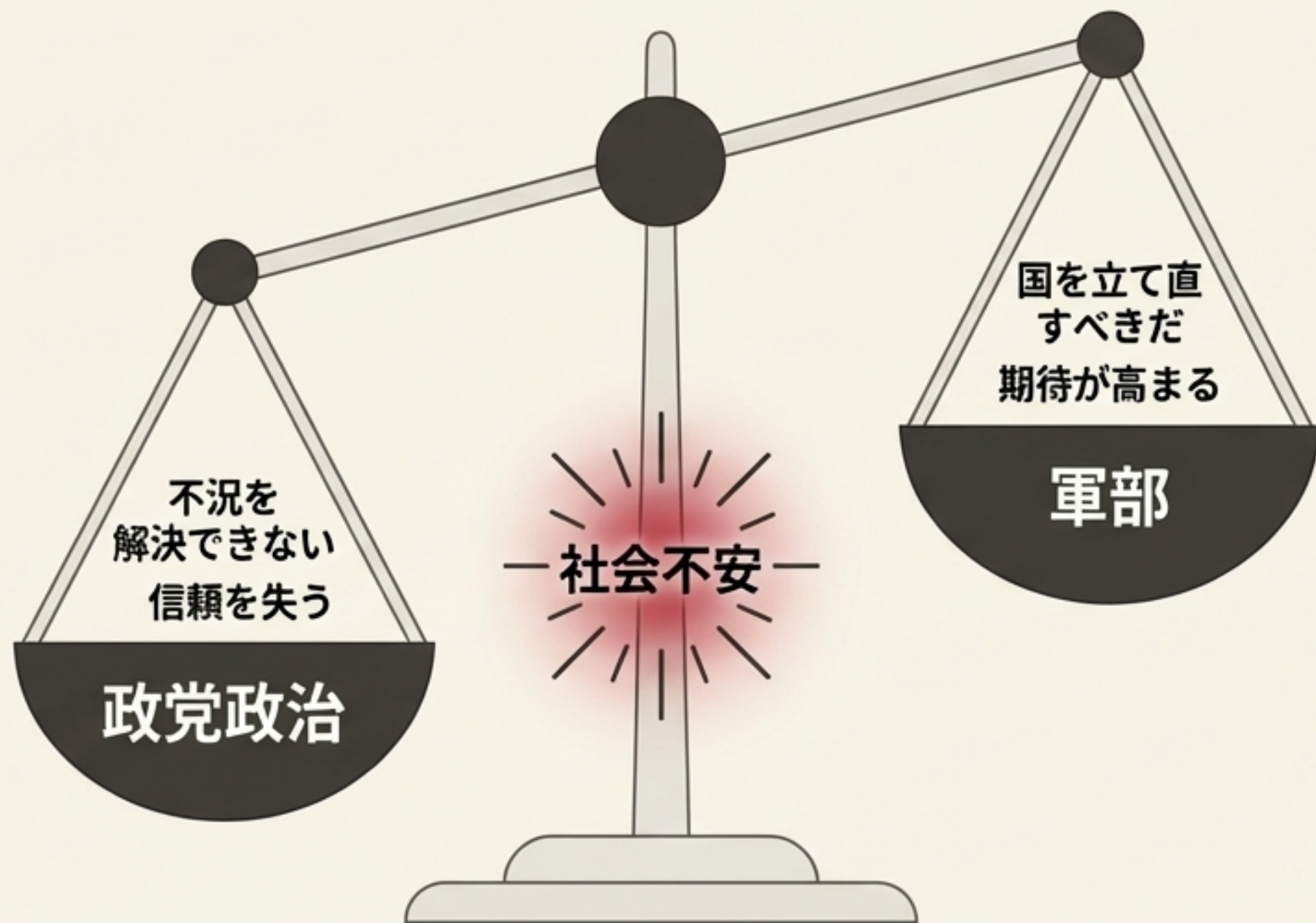
国民の生活難

世界恐慌

1929年にアメリカのニューヨークで株価が大暴落したことから始まり、世界中に広がった深刻な経済危機。

ドミノ②：政治への不信、軍部への期待

不況を解決できない政党政治に対し、「国を守れない」という国民の信頼は失われていった。この社会不安の中、「軍が国を立て直すべきだ」という考えが広がり始める。国民の不満と期待を背景に、軍部は政治への発言力を急速に強めていった。



政党政治の衰退

不況への対応の失敗から、国民の信頼を失い、政治的な力を弱めていったこと。

軍部の台頭

政治への不満を受け皿に、軍が国を主導すべきだという考えが強まったこと。

ドミノ③：軍部の暴走、満州事変

1931年、日本の関東軍は中国東北部で満州事変を起こし、その地を占領した。翌年、日本は「満州国」を建国するが、これは事実上、日本が実権を握る国（傀儡国家）だった。政府の意向を無視した軍部のこの行動は、日本の運命を大きく変えることになる。

満州事変（1931）

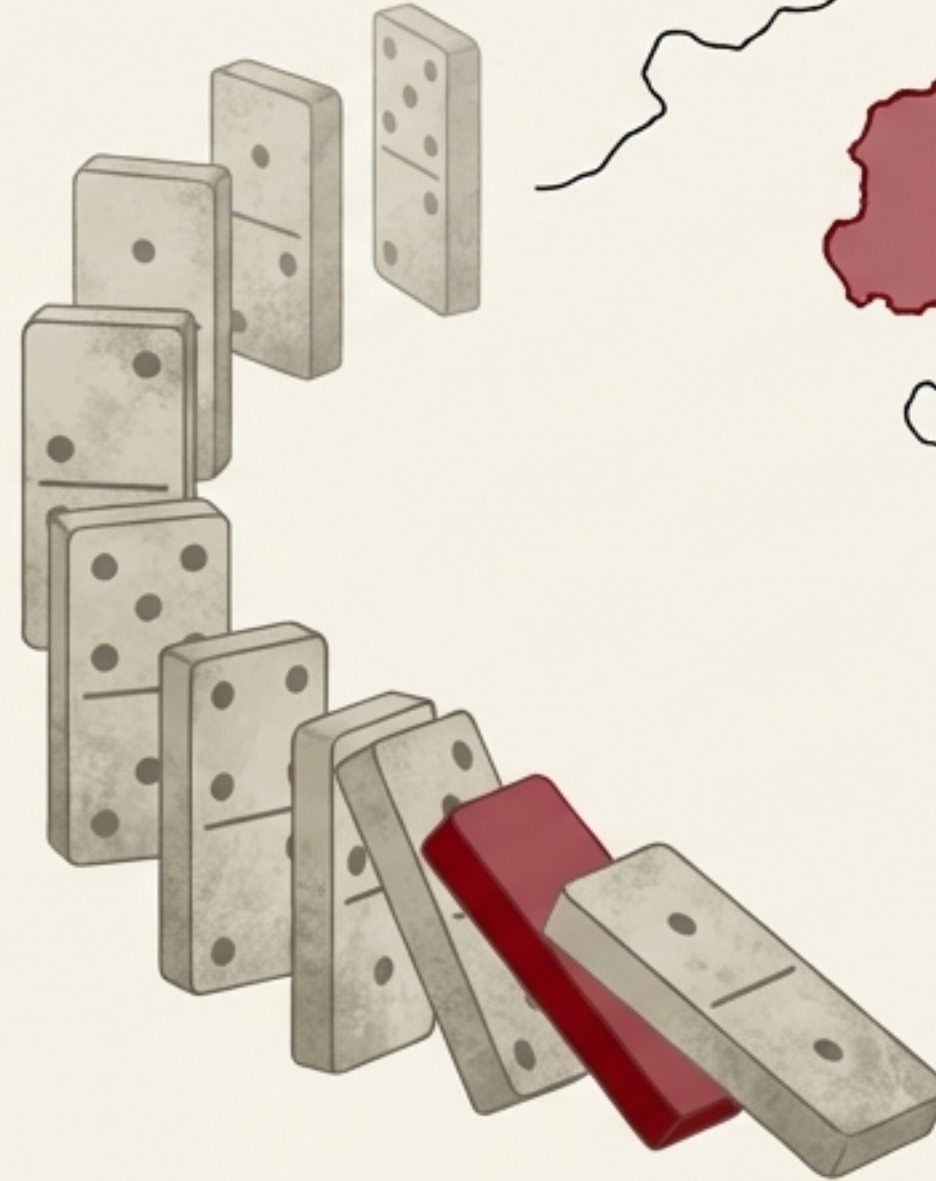
関東軍による自作自演の鉄道爆破を機に、満州全土を占領した事件。

関東軍

満州に駐留していた日本陸軍の部隊。独自に行動し、満州事変を引き起こした。

満州国

関東軍が樹立した傀儡国家。実質的な支配は日本が行っていた。



ドミノ④：世界からの孤立、国際連盟脱退

満州国の建国を問題視した国際連盟は、リットン調査団を派遣し、日本の行動を厳しく批判した。しかし、日本政府は軍部の意向を抑えられず、この勧告を受け入れなかった。そして1933年、日本は国際社会の仲間である国際連盟から脱退。世界の中で孤立する道を選んだ。



国際連盟脱退（1933）

リットン調査団

ドミノ⑤⑥：クーデターが政治を殺す

1932年

五・一五事件

海軍青年将校らが首相・犬養毅を暗殺。
これを機に**政党内閣の時代は終わる。**

1936年

二・二六事件

陸軍青年将校らがクーデターを試みる。
事件は失敗したが、**軍の発言力は決定的に強まり**、政府はもはや軍の意向を無視できなくなった。

ドミノ⑦：泥沼化する日中戦争

1937年、日本と中国の間で日中戦争が始まる。軍部は「戦争はすぐに終わる」と考えていたが、中国の抵抗は激しく、戦争は長期化。

終わりの見えない「泥沼」の戦いとなり、日本の国力を大きく消耗させていった。この戦争を続けるために、日本は国全体を戦争体制へと変えていく必要があった。

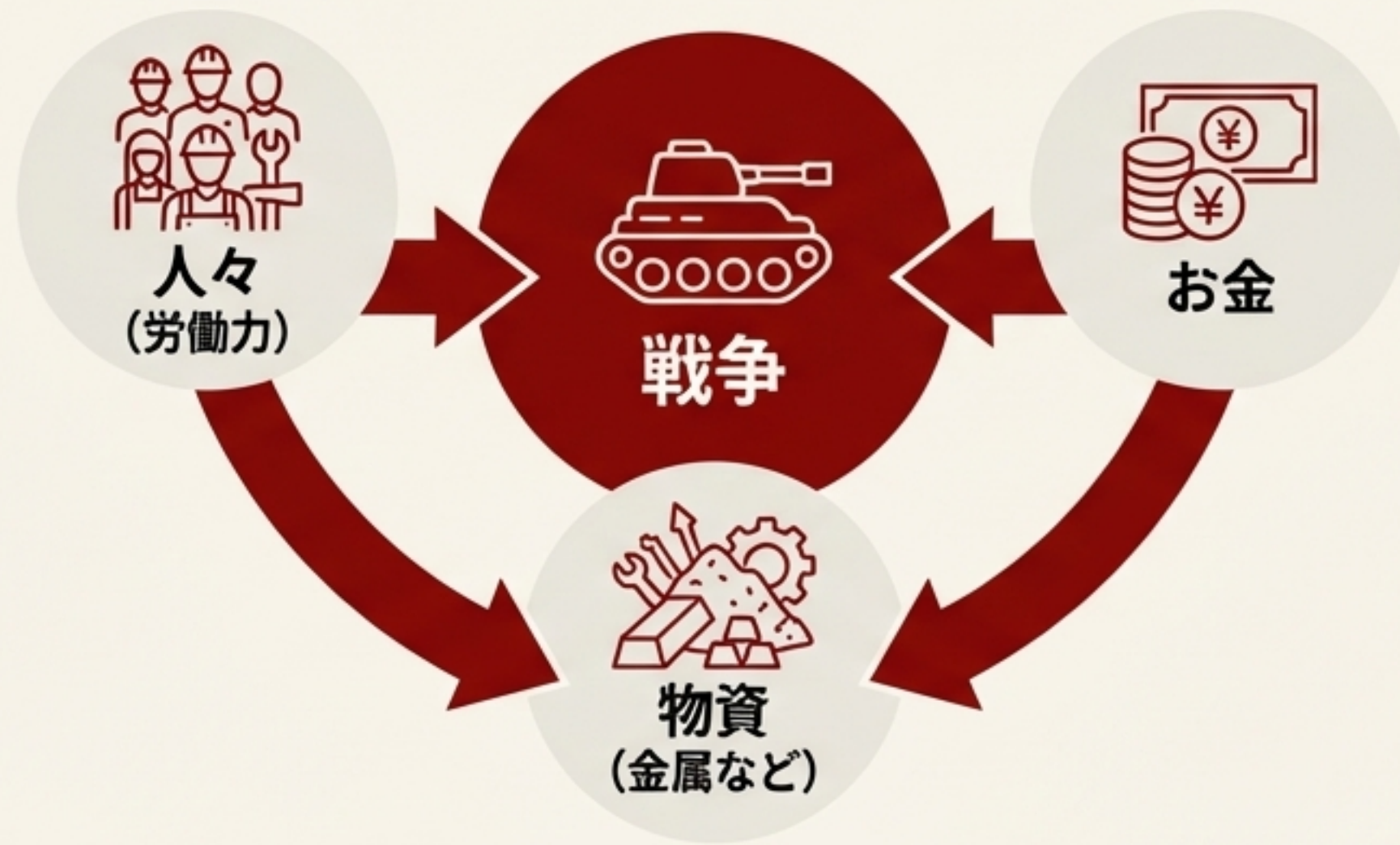


ドミノ⑧：国民生活のすべてを戦争へ

終わらない日中戦争を続けるため、政府は1938年に**国家総動員法**を制定した。

これは、戦争に必要、物、金を、政府が議会の承認なしに自由に動員できる法律である。

これにより、国民生活は厳しく統制され、すべてが**戦争に優先**される時代が始まった。

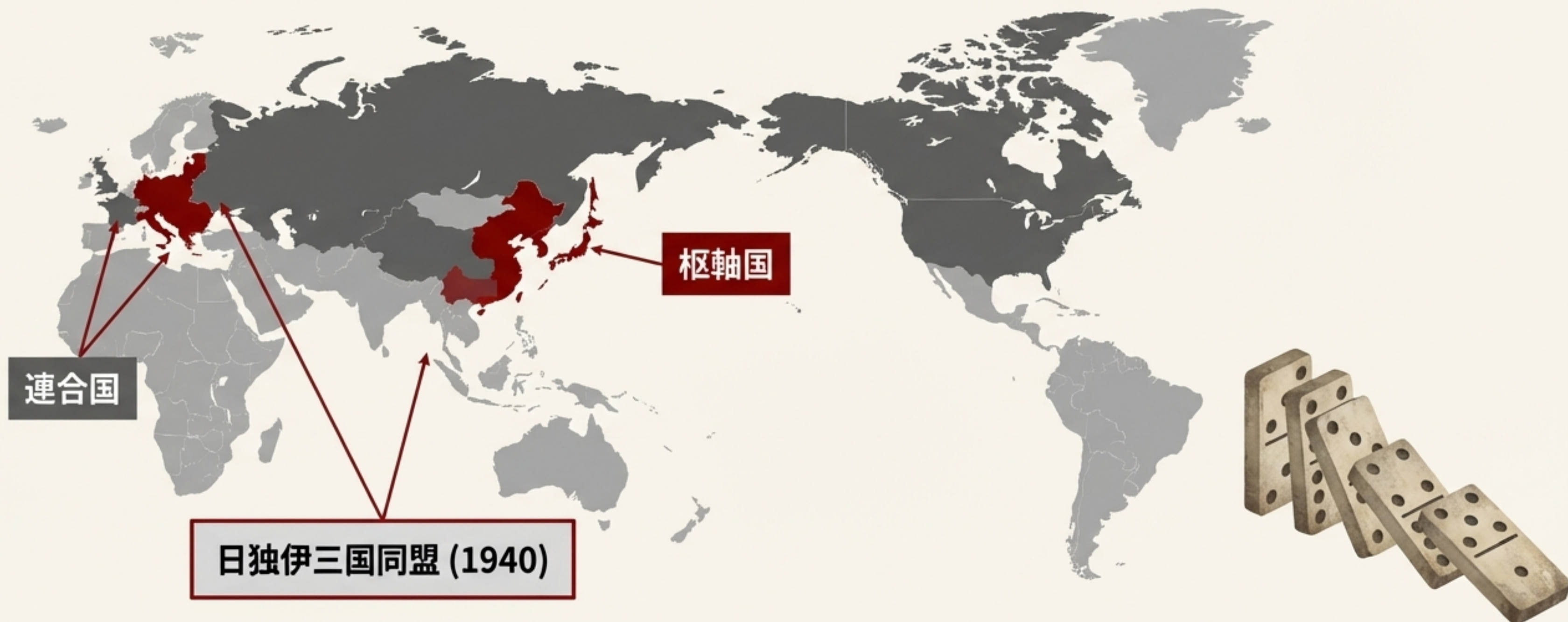


国家総動員法

**国家総動員法
(1938)**

ドミノ⑨：世界を二分する戦いへ

ヨーロッパで第二次世界大戦が始まると、日本は同じく国際社会で孤立していたドイツ、イタリアと手を結び、1940年に**日独伊三国同盟を締結した**。これにより、アメリカやイギリスとの対立は決定的となり、日本は世界規模の戦争へとさらに深く突き進んでいくことになる。



最後のドミノ： 太平洋争、全面戦争へ

資源確保などをめぐり、アメリカとの対立が限界に達した日本は、1941年12月8日、ハワイの真珠湾を攻撃。これにより太平洋戦争が始まった。日中戦争に加え、アメリカ・イギリスなどを相手にしたこの戦争は、日本の国力を超えた無謀な戦いであった。



Keyword Spotlight

太平洋戦争

Keyword Spotlight

真珠湾攻撃

敗戦への道：絶望的な状況



1945年3月

東京大空襲

都市への大規模な空襲で、多くの市民が犠牲となる。



1945年8月

原子爆弾

8月、広島と長崎に投下され、壊滅的な被害をもたらす。



1945年8月

ソ連対日参戦

最後の望みも絶たれ、戦争の継続は不可能となった。

終戦：玉音放送、そして戦争の終わり

1945年8月15日、昭和天皇はラジオ放送（玉音放送）を通じて、国民に自ら終戦を伝えた。日本は連合国に降伏し、15年にわたる長く、破壊的な戦争の時代はついに終わりを迎えた。



1945年8月15日

Keyword Spotlight

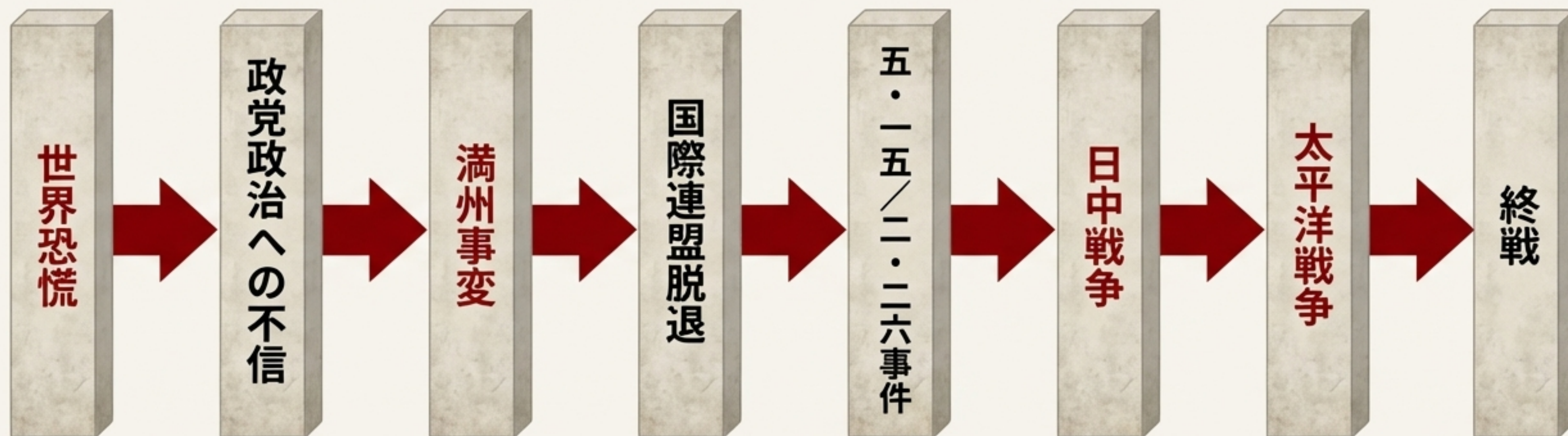
玉音放送

Keyword Spotlight

終戦

なぜ？をつなぐ：昭和前期のドミノ倒しを振り返る

一つの出来事が、次の悲劇の引き金となった。この流れを理解することが、昭和前期の歴史を学ぶ鍵となる。



歴史から学ぶ：一つの出来事が、次を創る

昭和前期の歴史は、遠い過去の出来事ではない。それは、一つの選択が次の未来を決定づける、強力な教訓である。なぜそうなったのか？という問いを持ち続けることが、歴史を深く理解し、未来を考える力になる。

